

潮流

中国の国有商業銀行改革と金融市場の整備

高成長を続ける中国経済にもいくつかの弱点がある。そのひとつが金融機関の不良債権問題であり、今回は、その背景と影響について検討してみたい。

中国の四大国有商業銀行の不良債権総額は約27兆8000億円（1兆9880億元）、不良債権比率は四行平均で21.4%（03年9月末）であり、そのうち中国銀行と中国建設銀行に対して中国政府は昨年末までに総額約4兆7700億円の資本注入を行い、不良債権処理を加速する意思を示した。中国政府としては、2006年に予定されている金融市場の全面開放に備えて、中国の銀行の競争力を高めておくことが、喫緊の課題となっているのである。

しかし、中国の不良債権問題は旧来型経済構造と密接に関連しており、その根は深い。中国の国有商業銀行の総融資額の約7割は国有企業向けであり、不良債権問題は国有企業改革と表裏一体の関係にある。70年代から90年代前半にかけては物不足の時代であり、国有企業は、政府の示した生産目標を達成することが最優先され、設備をフル稼働することに注力する傾向が強かった。そのような生産至上主義の風土は、90年代後半以降の供給過剰時代に入っても色濃く残り、競争激化のなかで販売価格が下落し、生産増加が収益増加に直結しない環境変化のなかにあっても採算を度外視した増産が続けられたのである。これはさらなる供給過剰の一因となり、デフレ圧力 増産 デフレ圧力という悪循環のなかで国有企業の収益は悪化し、不良債権の増加を招いた。

不良債権の増加を抑制するためには、その根本要因である国有企業改革が不可欠であり、中国政府は国有企業の民営化をはじめ多岐にわたる改革を急速に進めている。

一方、国有商業銀行は財務内容を改善するために、高リスクの融資に慎重になり、本当に資金を必要としている私営中小企業などの成長セクターに資金が回らない貸し渋り現象が生じている。反面では、利益を確保するために不動産関連融資を増やしており、一部の都市では不動産バブルの懸念が生じている。

昨年9月、経済過熱と不動産バブルによる不良債権の新規発生を懸念した中国政府は、銀行貸出の伸びを抑える目的で、国有商業銀行の預金準備率を6%から7%へ引き上げた。しかし、その結果、国債相場の急落と市場金利の急上昇を招き、中国人民銀行は公開市場操作で国債買い入れを実施し、多額の流動性を供給することを余儀なくされたのである。

中国の金融改革は、今、不良債権処理を進めながら、国有商業銀行改革と資金の最適配分を可能とする金融市場の整備を並行して進めるという困難な局面に直面している。金利の自由化も過渡期であり、市場による金利形成機能は不完全である。しかし、中国経済の高成長持続のためにはそのインフラである金融市場の整備が不可欠である。中国経済を見通すうえでも今後の金融改革の進展状況を注視していきたい。

（取締役調査第二部長 鈴木利徳）